



国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



木材の衝撃吸収力を体験



2011・国際森林年

各地で木づかい推進月間の 関連行事が開催される



(P2~4に関連記事)

主な項目	○ マスコミ関係者が国有林を視察..... P2
	○ 木づかい推進月間行事 P2~4
	○ 各地からのたより..... P4~6
	○ 風景紀行 P8

マスコミ関係者が 国有林を視察

「広報」十月二十日、絶好の秋晴れの
下、金曜会（長野県内マスコミ各社の報
道責任者の会）に対する国有林視察会を
実施しました。

中部森林管理局の取り組みを紹介する
ため恒例となっている視察会ですが、今
回は中信森林管理署管内の上高地を視察
箇所として、実施しました。

最初の視察箇所は、今年六月下旬に観
光客らが一時孤立状態となった土砂災害
発生箇所ワラビ沢で、中信署の下堂署
長、金井治山課長から、災害の発生状況
及び復旧計画、関係機関との調整事項等
の概要を説明。場所を移し同様に土砂災
害が発生した産屋沢についても確認しま
した。



産屋沢の災害状況を説明



善六沢の鋼製柵土留工施工地

その後、次の視察箇所であるケシヨウ
ヤナギ保護林設定予定箇所へ移動し、有
井流域管理調整官から、ケシヨウヤナギ
の基礎知識として国内では北海道のほか
上高地周辺の限られた地域にのみ分布す
る希少な種であり、長野県の準絶滅危惧
種に指定されていることと、新たに植物
群落保護林として設定する背景について
説明しました。

昼食を長野県登録有形文化財に指定さ
れている嘉門次小屋囲炉裏の間でとった
後、上高地ケシヨウヤナギ等林木遺伝資
源保存林として設定されている林内に入
り、ケシヨウヤナギを間近で確認してい
ただきました。

続いて、上高地という立地であるゆえ
に周辺景観にも配慮して施工した善六沢
復旧治山工事施工箇所へ案内し、鋼製柵
土留工の施工状況をご覧いただきました。

今回の視察では、国有林をフィールド
とした業務の一部を紹介しましたが、参
加者から「国有林の果たしている役割に
ついて理解を深めることができた。」と
の言葉をいただきました。最後に城土局
長から「現在、局署を挙げて森林・林業
の再生に向けた取り組みを行っているこ
とから、ご支援ご協力をいただきたい。」
との要請をして視察会を終えました。



大正池をバックに記念撮影

木づかい推進月間行事

木材の利用促進に向けて
「フェア」開催

「富山署」木づかい推進月間中の十月八
日、九日に「とやま木づかいフェア」が
富山県などの主催（林野庁後援）により



テープカットの様子
(左から二人目が田中名古屋事務所長)

高岡市の高岡テクノドームで開催されま
した。
当フェアは「木ってすごい！」木を
使って明るい未来ををテーマに富山県
民の皆さんに木材の良さや木造住宅の快
適性・安全性を理解していただくとも
に、家具・遊具などの木工品、木質バイ
オマスの紙やエネルギーへの利用など幅
広く木材利用を推進するため、また木材
の利用拡大を進めることが地球温暖化の
防止や森林整備に繋がることを見聞・体
感し普及するために開催されたもので
す。
開催にあたってのオープニングセレモ
ニーでは、富山県知事の挨拶などの後、
知事や名古屋事務所長らによるテーブ
ラカットが行われました。



大勢の人で賑わう会場の様子

会場内には、企業ブースゾーンや家具ゾーンが設けられ、木造耐震住宅、ペレットストーブ、木製家具などの展示があり、家族連れの来場者が熱心に説明を聞いている姿が見受けられました。

また、ステージゾーンでは、木造公 共建築物に関するセミナーとして住宅 リフォームのテレビ番組で活躍している建築士の講演会などが開かれました。

地元農林産物や加工品の地産地消費 売コーナー、会場前のいすや木笛などの木工教室、丸太切り大会も人気を集 め、開催両日ともに大勢の人で賑わい ました。

二日間で中信森林管理署のブースには約百名が訪れ、木の衝撃吸収力を見ることのできる実験装置を体験し、木材の衝撃吸収力に驚くとともに、職員からの説明になるほど聞き入っていました。ま



宮澤安曇野市長へ木の性質を説明

当日は、安曇野市内外で活動する団体が集まり、会場には環境問題や自然について学ぶことのできる、七十一団体のブースが出展されました。

「あづみ野環境フェア2011」が開催され、中信森林管理署では木材の良さを知ってもらうためのブースを出展しました。

「あづみ野環境フェア2011」が開催され、中信森林管理署では木材の良さを知ってもらうためのブースを出展しました。

 「あづみ野環境フェア」

今回搬出した間伐材は、今年の五月から十月までの間に、多摩市の小学六年生

「南信署」十月十六日(日)、長野県富士見町の西岳国有林に所在する「多摩市民の森」(遊々の森)で、東京都多摩市の市民ボランティア団体「フレンドツリーサポーターズ」、多摩市・富士見町、上伊那森林組合及び当署職員約四十名が参加して、間伐材の搬出作業を実施しました。

当作業は、木質バイオマスエネルギーの利用拡大に向けた森林ボランティア活動として平成十七年度から始まったもので、今回で七年目となります。

 木質バイオマスエネルギーの利用拡大に向けて

た、リンゴなどの果実をつける木を磨いて作り上げられた木工作品の展示を行い、普段、その果実を食べたことはあっても、木そのものを見る機会はなかなかないため、来場された皆様は作品に触れたり、匂いを嗅ぐなどして木からできた作品を堪能していました。

また、電気ペンによる名札作りも行い、子供から大人まで木のぬくもりを感じる作品作りに夢中になっていました。

来場者だけでなく、出展者にとっても、環境に関する活動を行っている個人・団体が情報交換をしながら交流を深めることのできる良い機会となりました。



開会式の様子

約千二百名が間伐体験により伐倒したもので、搬出しきれずに残っていた木材の有効活用を図る目的で実施したものです。参加者は、一・六割に玉切りしたカラマツ材等約二十立方メートルを人力で、林内から林道端まで約百メートル搬出しました。

搬出された間伐材は、トラックで上伊那森林組合のペレット工場に運ばれ、ペレットストーブの燃料に加工されます。

ここで活動を行っているボランティア団体は、年五回この地を訪れ間伐作業等の森林整備を実施しており、この日が最終日ということで、前日の雨天の中での作業に続き、早朝より作業に取り組んでいただきました。

当作業を通じて、上下流の連携を深めるとともに、自然エネルギーが近年見直される中、今後の利用拡大と木質、バイオマスエネルギーの普及を通じて、木づかい運動が国民全体に広がることを期待しています。



林内から間伐材を搬出するボランティア

各地からのたより

中信森林管理署 育樹祭

(森林整備とあがりこサワラで森林教室)

〔中信署〕十月六日、北安曇郡松川村において、中信森林管理署主催による育樹祭を開催しました。

この育樹祭は、地域の国有林において育樹作業を行うことで、森林を育てることの重要性に関心を持っていただくこと

もに、森林環境教育のフィールドを兼ねて、地域と連携した取組となることを目的とし、現在、松川村と協定締結に向けて進めている「あがりこサワラ郷土の森」のお披露目も併せて実施しました。

当日は、地元の松川村長始め関係市町村等の関係者や長生会からの九名も含めた来賓約三十名と松川小学校五年生児童・教職員約百名の総勢約百三十名が式典終了後ヒノキの間伐作業を実施しました。来賓の間伐箇所は急傾斜のうえ間伐木も太く、参加者は安全に配慮した間伐を保ちながら大粒の汗を流し、一本一本丁寧に間伐を実施しました。



熱心に作業を行う児童

作業終了後は、適度な空間ができ、林床に日が差し込んだことから、全員で達成感を共有できました。間伐作業に参加した平林松川村長からは、松川村に所在する国有林で育樹祭が開催されたことに

対し、感謝の言葉があり、来年も松川村での開催を望まれました。

また、松川小学校の児童は森林整備の意義を中信署職員より事前学習で学んでおり、このことを踏まえて作業を行い、普段は体験することのできないのこぎりでの作業を意欲的に協力して行っていました。

午後からは場所を移動して森林教室を行い、治山堰堤を見ながらの治山事業の説明を受けたり、地域の貴重な環境資源である「あがりこサワラ(※)」の見学会を行いました。児童たちはその迫力に圧倒されていました。

参加した児童たちは「治山のことや、森林を守る工夫がよくわかった」と話し、森林を育てることの大切さを学んで



あがりこサワラを説明

いました。

※あがりこサワラ：台伐りを行った際、側枝の生長を促すことにより形成された独特な樹形をしたサワラのこと。

森林インストラクターと協力

法人の森「日本興亜の森林」の森林教室

〔南信署〕十月八日、南信署管内の西岳国有林にある「日本興亜の森林」(法人の森)で第十九回森林教室が開催されました。

この法人の森は日本興亜損害保険と一九九八年に契約したもので、毎年「日本興亜おもいやり倶楽部」が主催となり、日本興亜損害保険関連の社員(及びその家族)を対象に間伐体験を主とした森林教室が行われてきました。

これまで、本イベントの指導を当署職員主体で行ってきましたが、今年度は森林インストラクター会と協力することでより充実したイベント内容にすることができました。

参加者五十三名(大人四十三名、子供十名)を、午前は大人を八班に分けて間伐体験、子供は間伐箇所とは離れた林道上で森林レクリエーションを実施しました。

間伐班は胸高直径十四〜十六センチの四十年生のカラマツを伐倒、玉切りし、林道沿いまでロープを用いて搬出しました。この間伐材の一部はペレットの材料



法人の森で間伐体験

として利用する予定です。参加者は「自然の中で気持ちのいい汗をかいた。」と充実した様子で話してくれました。

子供の班ではカモフラージュなどのレクリエーションを行い、遊びながら自然観察を楽しみました。

午後には森林インストラクターによるオカリナ演奏や森の話を聞き、その後で自然体験として火おこしに挑戦しました。どの班でも火をおこすことはできませんでしたが、「火をおこすのはとても大変。昔の人の苦勞を体験できた。」と話していました。

今後は主催者と話し合い、森林ボランティア・NPO団体との連携を視野に入れ、参加者がより楽しめるようなイベントを維持、継続していきます。

中国四川省JICA技術プロジェクト
中国研修生木曾署管内を視察

【木曾署】平成二十三年十月二十六日午後から二十八日にかけて、中国四川省の研修生一行十七名が木曾森林管理署管内



班に分かれて火おこしに挑戦！



森林インストラクターによるオカリナ演奏

後から二十八日にかけて、中国四川省の研修生一行十七名が木曾森林管理署管内

を視察に訪れました。

今回の視察は、二〇〇八年、中国四川省で発生した四川大地震の復興支援プロジェクトの一環で中国の森林植生回復のために日本の治山技術等を参考とすることを目的に木曾署管内の復旧治山、長野県西部地震跡地の緑化プロジェクトの現地等を視察しました。

初日は、川瀬署長の出迎えの下、森林浴発祥の地「赤沢自然休養林」周辺を視察。森林鉄道乗車と周遊コースの散策では木曾檜美林と溪流が醸し出す絶景を満喫した後、治山事業で整備された石張谷止工やバリアフリーの遊歩道、吊橋、間伐材を利用した遊歩道等を視察し強い関心を示した様子でした。

二日目は、木祖村管内の木曾川源流域の溪間工や県道下に位置する山腹工を視察し、施工前の荒廃した写真と施工後の現地を照合しながら採用した各種工種等についての質問等が飛び交いました。

三日目は、王滝治山事業所管内の治山施工地を視察しました。

展望台から緑に復旧した現地の眺めは昭和五十九年の震災直後の荒廃状況からは想像もつかないものであり、復旧のための治山技術・緑蘇生のための多くのボランティア活動に感心した様子でした。

また、伝上川復旧治山工事現場においては、急峻な法面

を視察に訪れました。

今回の視察は、二〇〇八年、中国四川省で発生した四川大地震の復興支援プロジェクトの一環で中国の森林植生回復のために日本の治山技術等を参考とすることを目的に木曾署管内の復旧治山、長野県西部地震跡地の緑化プロジェクトの現地等を視察しました。

初日は、川瀬署長の出迎えの下、森林浴発祥の地「赤沢自然休養林」周辺を視察。森林鉄道乗車と周遊コースの散策では木曾檜美林と溪流が醸し出す絶景を満喫した後、治山事業で整備された石張谷止工やバリアフリーの遊歩道、吊橋、間伐材を利用した遊歩道等を視察し強い関心を示した様子でした。

二日目は、木祖村管内の木曾川源流域の溪間工や県道下に位置する山腹工を視察し、施工前の荒廃した写真と施工後の現地を照合しながら採用した各種工種等についての質問等が飛び交いました。

三日目は、王滝治山事業所管内の治山施工地を視察しました。

展望台から緑に復旧した現地の眺めは昭和五十九年の震災直後の荒廃状況からは想像もつかないものであり、復旧のための治山技術・緑蘇生のための多くのボランティア活動に感心した様子でした。

また、伝上川復旧治山工事現場においては、急峻な法面



関心の高かったロッククライミングマシンでの作業



展望台から治山工事施工地を望む

をリモコン操作で整形する「ロッククライミングマシン」の稼働状況を視察し、日本の治山事業における先進技術の導入に強い関心を示した様子でした。

今年「日本の治山史百年目」と言われていますが、今回の視察においてもその歴史に培われた治山技術の一端を紹介できたものと思います。「中国の治山元年」の歴史に日本の治山技術が反映され中国四川省の森林造成の一助になることを願ってやみません。

国際森林年記念「金華山再発見！ 歴史と自然探訪ウォーク」

「岐阜署」十一月十日、岐阜森林管理署における国際森林年を記念してのイベントの第二弾として、「金華山再発見！歴史と自然探訪ウォーク」を行いました。

都市近郊林として多くの人が訪れる金華山ですが、近年の歴史ブームに加えて今年二月に金華山全域を含めた岐阜城跡が国の史跡指定を受けたこともあり、参加募集時には定員を大きく上回る参加希望があるなど強い関心が寄せられるイベントとなりました。

当日は二十名の方にご参加いただき、自然学研究所の清水先生による金華山の



植生の説明に聴き入る参加者

信長の時代から残る石垣や参道を見ながらの「戦の形跡が無く客人をもてなしたとされる文献が多いことから岐阜城は

午後からは岐阜市社会教育課の内堀さんから岐阜城の歴史について説明をいただきました。

植生についての説明を含めた山頂までのウォーキングから始まりました。金華山に生える常緑広葉樹の大半を占めるツブラジイの名前の由来（どんぐりが円ら「小さくてかわいい様」であること）や板根の説明では、実際に木の実を手にしたたりその姿を目の当たりにしてより実感が深まったようでした。また、他の植物の説明時にも熱心にメモを取る参加者の姿が印象的でした。



岐阜城の歴史にも興味津々

接待外交の拠点とされていたのではないかと」の見解や、「信長公居跡から発掘された庭園跡などはとても貴重でその価値は計り知れない」との熱のこもった説明に参加者は感慨深げに聴き入っていました。

当日は曇り空で肌寒い日でしたが、参加者からは「とても楽しかったので是非また企画してほしい」「タイトルどおり金華山の魅力を再発見できた」との感想が聞かれるなど、好評のうちに一日の行程を終了しました。



参加者で記念撮影

シリーズ 現場最前線 広大な国有林の管理 安全第一に良い山づくりを目指して

「木曽森林管理署王滝班」木曽森林管理署の王滝地区は、旧王滝営林署が所在した地区で、現在は王滝治山事業所と瀬戸川・南滝越・水ヶ瀬・北滝越森林事務所からなり、霊峰御嶽山の南側山麓から岐阜県境まで、王滝村一円の約二六、〇〇〇畝の国有林を管理しています。

当地区（王滝村）は、愛知用水の水瓶である牧尾ダムがあり、そうした位置づけから上下流の交流が盛んに行われています。村面積の八十四％を占める国有林はその水源林でもあり、地球温暖化防止対策としての森林整備や治山事業等災害に強い山作りを積極的に行っています。

王滝地区の造林班は、これまで瀬戸川・水ヶ瀬班、南滝越・北滝越班の二班十名体制で業務を行っていましたが、定年退職にともなう班体制の見直しにより四月からは王滝地区全域を範囲とする王滝班として六名体制で業務を行っています。

当班は、広大な二六、〇〇〇畝の国有林の管理とその管理用の道路でもある三〇〇キロにも及ぶ林道の維持業務を行うことが最大の特徴です。業務は除伐、歩道修理、獣害防除、収穫調査、境界巡



王滝班の皆さん

検、森林保全管理、林道維持業務等多様な作業を行っており、班長を中心にした毎朝のミーティングがかかせません。また、班員は大工、看板屋、電気屋、鉄鋼屋など、プロにも勝るとも劣らない卓越した技量を持っている職員が多いことも特徴の一つですが、生産事業に従事していた頃の経験も生かしながら丁寧で確実な作業はもちろんのこと、物作りから修理まで何でもこなしてしまうところがすばらしいところです。作業地では背丈以上もある竹のような笹と戦いながら、日々その技量をフルに発揮して業務を行っています。



焼岳と月

写真 コーナー

笑いの絶えない明るい王滝班。今後においても安全第一に王滝地区職員一丸となつて良い山作りに邁進していきたいと考えています。



大正池から穂高連峰を望む



王ヶ鼻から見る松本市街と北アルプス

八ヶ岳中信高原国定公園 美ヶ原高原

本州のほぼ中央、松本市の東側に位置し、松本市・上田市・長和町にまたがった標高二、〇〇〇メートルに広がる風光明媚な高原地帯が美ヶ原高原です。美ヶ原高原は、八ヶ岳中信高原国定公園

ふう けい き こう
風景紀行
美ヶ原高原
79
中信森林管理署
(各署の景勝地等を紹介)

園に指定され、日本百名山の一つとされています。また、山頂付近は国有林であり、風致探勝林としてレクリエーションの森にも指定されています。

美ヶ原という名称は、文字通り美しい高原という意味で、江戸時代の文献でもこの名称を使っていますが、定着したのは大正十年に木暮理太郎が、日本山岳会の会報に登山記録を載せた際に、美ヶ原と記したのがきっかけとされています。

美ヶ原高原は、その眺望の素晴らしさから「アルプスの展望台」とも呼ばれており、最高峰の王ヶ頭（二、〇三四メートル）や王ヶ鼻（二、〇〇八メートル）からは、東に富士山や浅間山、西に北アルプス、南に南アルプスや中央アルプス、北に妙高山や戸隠山など三百六十度の大パノラマを楽しむことができます。

また、約六〇〇メートルの高原には、季節を通して様々な植物が高原を彩りますが、特に六月下旬から七月中旬頃に咲く、松本市の市花でもあるレンゲツツジは見事で、緑の草原を真っ赤に染める光景は、毎年多くの観光客を魅了しています。

近年、美ヶ原高原周辺では、松本市を主体としてトレッキングコースの整備が進められており、高原風景を楽しみながら、トレッキングを行うことができます。自然の美しさも見事な美ヶ原高原ですが、その立地から電波塔設置の好適地とされ、王ヶ頭頂上付近にはいくつもの電波塔が立ち並んでいます。大自然と巨大

な人工物のコラボレーションを見られるのも、この高原の楽しみの一つでもあります。



王ヶ頭付近の電波塔群

気軽にアクセスできる、その名通りの美しい高原に是非一度足を運んでみてください。

◆アクセス

(所在地)

長野県松本市（上田市・長和町）

○車をご利用の場合

◇王ヶ頭・自然保護センター方面

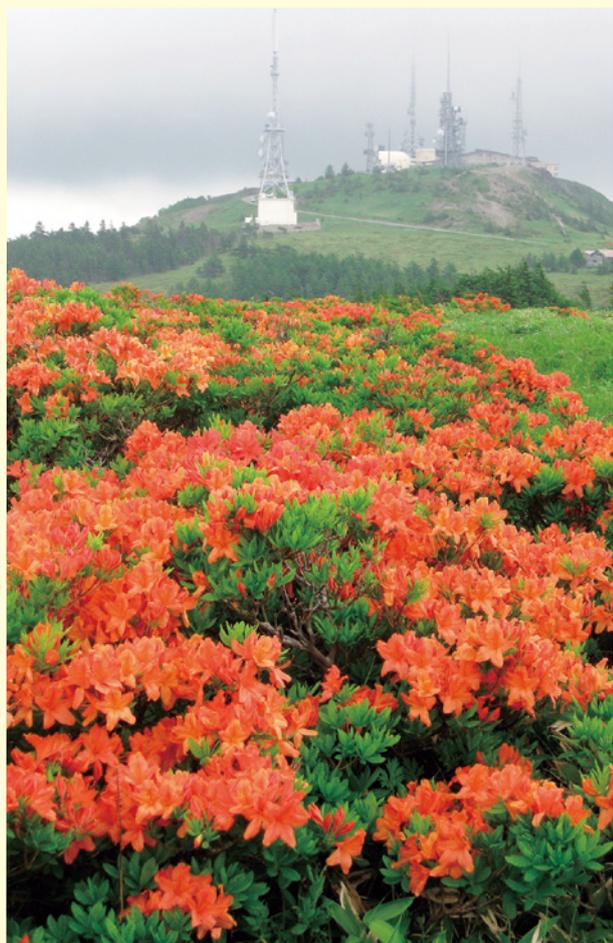
長野自動車道松本ICより美ヶ原スカイラインにて1時間15分

◇美しの塔・美術館方面

長野自動車道松本ICよりアザレアインにて1時間10分

○公共交通機関をご利用の場合

美しの塔・美術館方面については、松本バスターミナルより路線バスが運行しています。



レンゲツツジと電波塔群